

ヨシヤ
聖徒伝 154

「御言葉の命を 取り戻そう」

列王記 II 22章 歴代誌 II 34章

ヨシヤ王の宗教改革

アウトライン

0. イントロダクション

I. ヨシヤの宮きよめ

歴Ⅱ 34:1～6

II. 神殿の修復

歴Ⅱ 34:7～13

III. 律法の書の発見

列Ⅱ 34:14～19

IV. 神の預言者と悔い改め

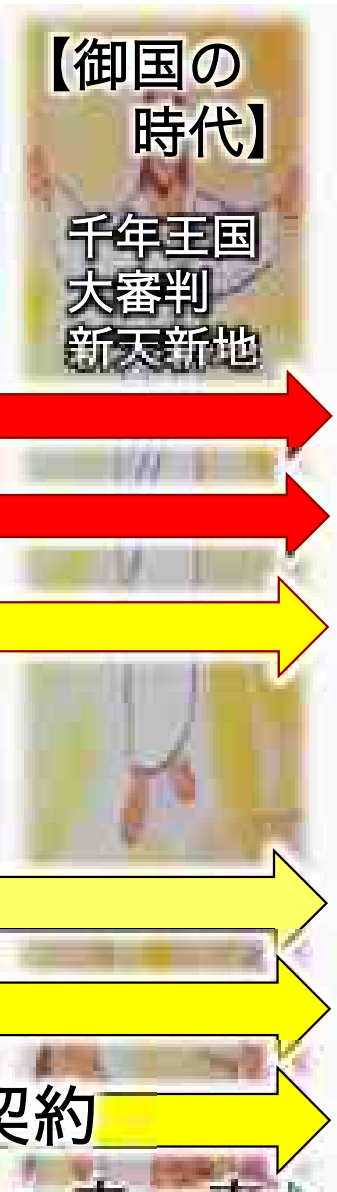
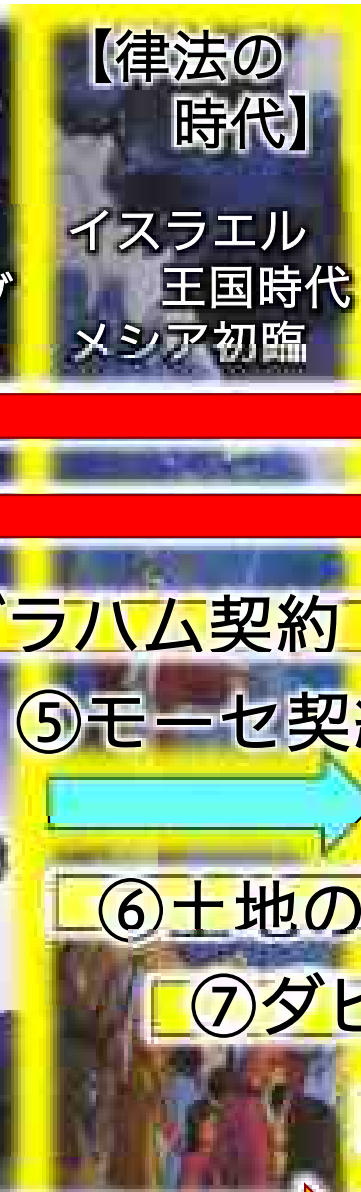
列Ⅱ 34:20～33

V. まとめと適用

その学びは、日々私を造り変えているか
御言葉の命を私自身に取り戻そう



崩された神殿の石



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

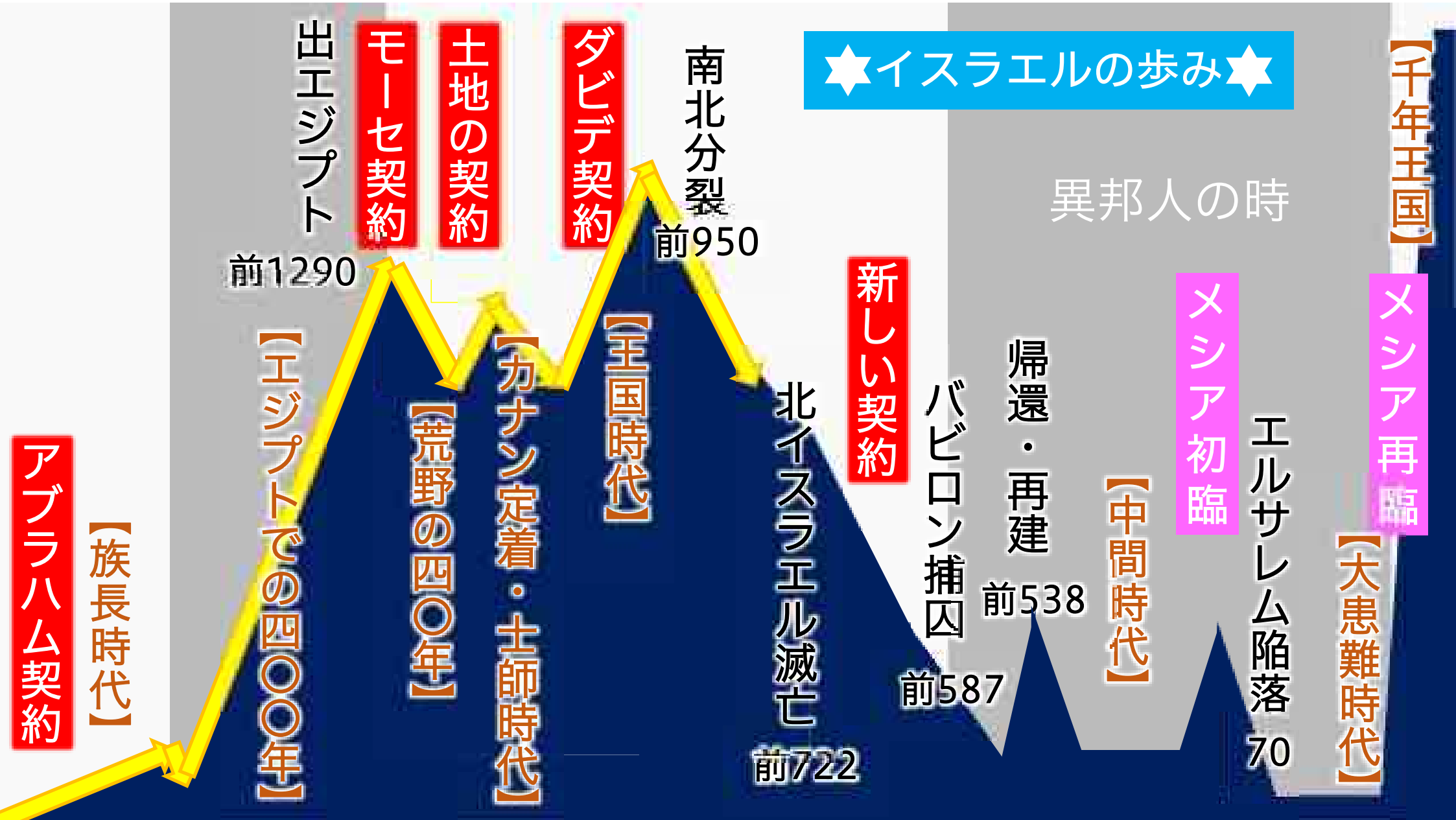
神の約束こそが
その時代の守り

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂

前950

ダビデ契約

【王国時代】

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

モーセ契約

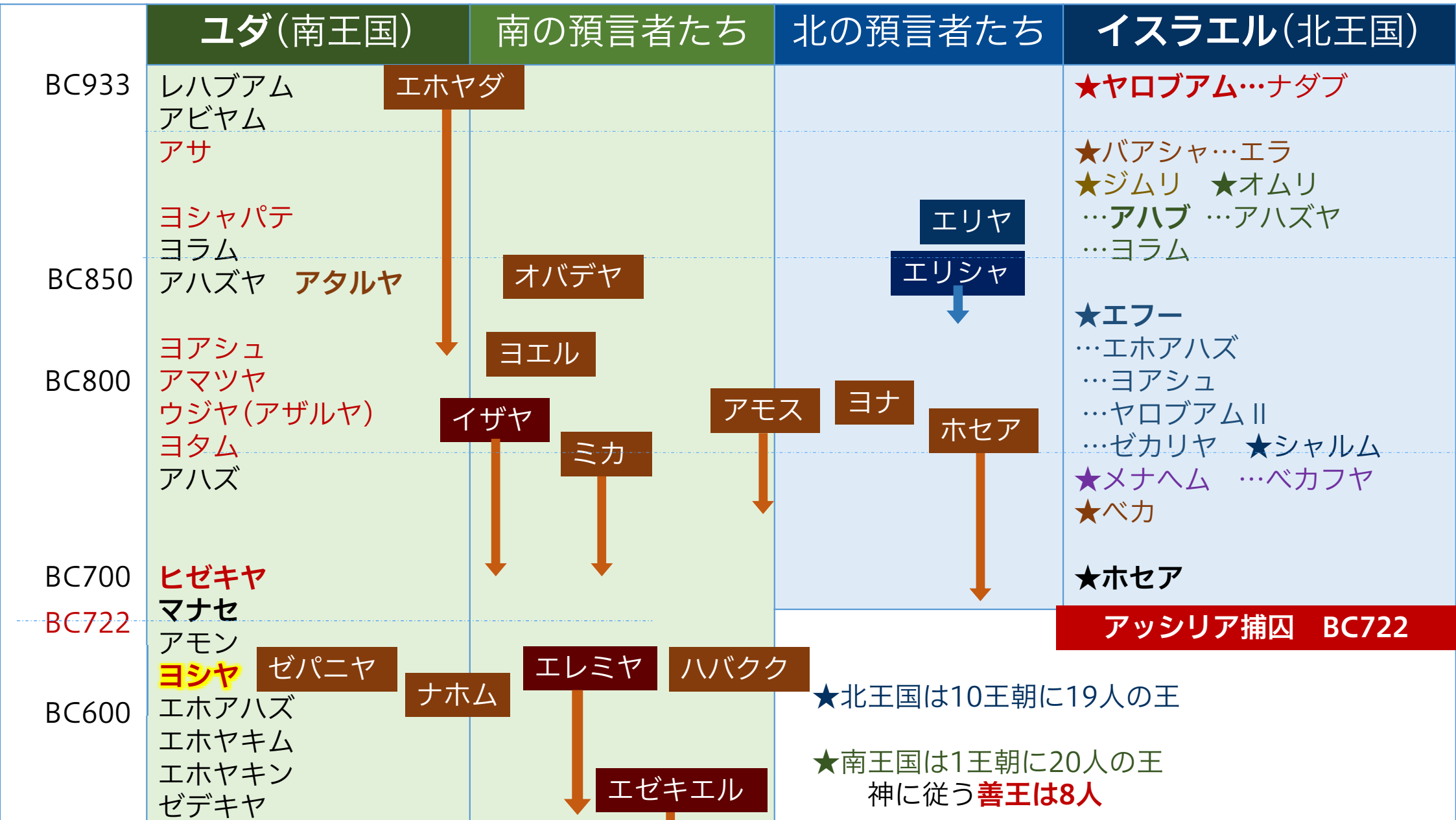
【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

【族長時代】

アブラハム契約



アッシリア捕囚②

BC722年

南王国ユダ

預言者の空白時代

ヒゼキヤ ♡
29年

イザヤ

ミカ

マナセ 🗿
55年

アモン 🗿
2年

ヨシヤ ♡
31年

エレミヤ

ハバクク

ゼパニヤ

エホヤキム
11年
エホアハズ
3ヶ月



Ⅰ. ヨシヤの宮きよめ

歴代誌第二34章1～6節

列王記 ヨシヤ王の即位 列二22:1～2

ヨシヤ*は八歳で王となり、エルサレムで三十一年間、王であった。彼の母の名はエディダ*といい、ボツカテ出身のアダヤ*の娘であった。

彼は【主】の目にかなうことを行い、父祖ダビデのすべての道に歩み、右にも左にもそれなかった。

*“主が癒やされた” * “愛された”

* “主はご自分を装われる”

■ダビデ王の系譜にふさわしく、主の道を歩んだ
ヨシヤ



歴代誌 神を求めて 歴二34:3

彼の治世の第八年*、まだ若いころに、彼は父祖ダビデの神を求めることを始め、第十二年*にユダとエルサレムをきよめて、高き所、アシェラ像、刻んだ像、および鑄像を除き始めた。

*16歳の時 …信仰者の道を歩み始めた。

*20歳の時 …実権を握ると即、着手。

■宮きよめと同時に、神殿補修のための献金も始めていた!!



真の信仰者は
間違いなく行動の人

歴代誌 徹底したきよめ 歴二34:4~5

人々は彼の前でバアルの神々の祭壇を打ち壊した。彼は、その上にあった香の台を切り倒し、アシェラ像と刻んだ像と鑄像を打ち砕いて粉々にし、これらのいけにえを献げた者たち*の墓の上にまき散らした。

彼はまた、祭司たちの骨*を彼らの祭壇の上で焼き、ユダとエルサレムをきよめた。

*アハブや歴代の悪王たちか？

*偶像神に仕える祭司たち



歴代誌 全土を巡る 歴二34:6~7

また、マナセ、エフライム*、シメオン*、さらにはナフタリに至る町々や、その周辺の荒れた地方*でも同様にした。

彼はイスラエルの全地で祭壇を打ち壊し、アシェラ像と刻んだ像を粉々に砕き、すべての香の台を切り倒して、エルサレムに帰った。

*北の10部族の二大部族。

*固有の所有地をもたない弱小部族。

*早い時期にアッシリアが占領。以前から偶像礼拝の悪影響にさらされていた地方



アッシリアの占領地
まで津々浦々を
めぐったヨシヤ



II. 神殿の修復

歴代誌第二34章7～13節

神殿の地下にあ広大な石切場

列王記 王の命令 列二22:3～4

ヨシヤ王の第十八年に、王は、メシュラムの子
アツアルヤ*の子である書記シャファン*を【主】
の宮に遣わして言った。

「大祭司ヒルキヤ*のもとに上って行き、【主】
の宮に納められていた金、すなわち、入り口を守る
者たちが民から集めたもの*を彼に計算させよ」

*“主は保たれた” * “友人”

* “岩場に棲みつく動物”…神殿に棲みつく者？

* “私の薬は主”

* ヨアシュ王も神殿補修費の献金箱を別途設置。



列王記 神殿修理の開始 列二22:5～7

「彼らが【主】の宮で工事をしている監督者たちにそれを手渡すようにせよ。そして、監督者たちは、神殿の破損の修理をするために、【主】の宮で工事をしている者たちにそれを渡すようにせよ。

大工、建築する者、石工に渡し、神殿の修理のための木材や切り石を買わせよ。ただし、彼らの手に渡した金の精算がなされる必要はない。彼らは忠実に働いている*からである。」

*信仰者である王の下に、信頼できる働き手が集っていたことがよく分かる。



歴代誌 神殿修理の責任者 歴二34:8

その治世の第十八年に、ヨシヤはこの地と宮をきよめる*ために、アツアルヤの子シャファン、この町の長マアセヤ*、エホアハズの子である史官ヨアフ*を遣わして、自分の神、【主】の宮を修理した*。

*一連のきよめの総仕上げが神殿の修理。

*“主の働き”

*“主は兄弟”



歴代誌 全イスラエルの献金 歴二34:9~10

彼らは大祭司ヒルキヤのもとに行き、神の宮に納められていた金を渡した。これは入り口を守るレビ人が、マナセとエフライム、すべてのイスラエルの残りの者、および全ユダとベニヤミンから集めたもの*であった。それから彼らはエルサレムに戻り、【主】の宮で工事をしている監督者たちにそれを手渡した。監督者たちは、神殿を繕い、修理するために、【主】の宮で行われている工事をしている者たちにそれを渡した。

*北の十部族も神殿で礼拝をしていた!!

→アッシリア捕囚後に回復された民の信仰。



歴代誌 資材費 歴二34:10~11

【主】の宮で工事をしている監督者たちにそれを手渡した。監督者たちは、神殿を繕い、修理するために、【主】の宮で行われている工事をしている者たちにそれを渡した。

彼らは、大工や建築する者たちにそれを渡した。切り石やつなぎ材を買い、ユダの王たちが荒れさせた家々*に梁を置くためであった。

*王たち➡家々。

…歴代の悪王たちが何度も神殿を毀損しては、再建が繰り返されてきた。



歴代誌 レビ人の働き 歴二34:12~13

この人々は忠実に仕事を行った。彼らの上には、メラリ族*のレビ人やハテとオバデヤ、ケハテ族*のゼカリヤとメシュラムが監督として任命された。レビ人たちはみな、楽器を奏するのが得意な者たちであったが、荷を運ぶ者たちも管理し、各分野の仕事に当たるすべての職人たちの指揮も執った。レビ人の中には、書記、つかさ、門衛などもいた。

*共にレビ人の主要な部族

- 本来のレビ人の仕事は、神殿の運営全般。
- ➔ イスラエルの信仰復興の中心を担った。



**レビ人の忠実な奉仕
信仰復興の核!!**



Ⅲ. 律法の書の発見

歴代誌第二34章14～19節

歴代誌 律法の書 歴二34:14~15

彼らが、【主】の宮に携え入れられていた金を取り出していたとき、祭司ヒルキヤは、モーセを通して示された【主】の律法の書*を見つけた。

ヒルキヤは書記シャファンに知らせて、「【主】の宮で律法の書を見つけました」と言った。

*モーセ五書(トーラー)

■以前に神殿補修を起こった者が、隠していた？



マナセが律法を廃棄させていたのだろう

歴代誌 報告① 歴二34:16~17

ヒルキヤがその書物をシャファンに渡すと、シャファンは、その書物を王のもとに携えて行き、さらに王に次のように報告した。

「しもべたちに委ねられたことは、すべてやらせております。彼らは【主】の宮にあった金を取り出して、これを監督者たちの手と、工事をしている者たちの手に渡しました。」



歴代誌 報告② 歴二34:18~19

さらに書記シャファンは王に告げた。

「祭司ヒルキヤが私に一つの書物を渡してくれました。」シャファンは王の前でそれを朗読した。王は律法のことばを聞いたとき、自分の衣を引き裂いた*。

*激しい嘆きとへりくだりの表現。

■ おそらく発見されたのは、イスラエルの背きと捕囚を警告した申命記だろう。



イスラエルの背教と捕囚の予告

申命記28章36～37節

【主】は、あなたと、あなたが自分の上に立てた王とを、
あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった国に行かせる。
あなたはそこで木や石の、ほかの神々に仕える。

【主】があなたを追いやられる先の、あらゆる民の間で、
あなたは恐怖のもと、物笑いの種、なぶりものとなる。



IV. 神の預言と悔い改め

歴代誌第二34章20～32節

歴代誌 主を求めよ 歴二34:20~21

王はヒルキヤ、シャファンの子アヒカム、ミカの子アブドン、書記シャファン、王の家来アサヤに次のように命じた。

「行って、見つかった書物のことばについて、私のため、イスラエルとユダの残りの者のために、【主】を求めよ。私たちの先祖が【主】のことばを守らず、すべてこの書に記されているとおりに行わなかったために、私たちの上に注がれた【主】の憤りが激しいからだ。」



歴代誌 女預言者フルダ 歴二34:22～23

そこで、ヒルキヤと王が指名した人々は、女預言者フルダ*のもとに行った。彼女は、ハスラの子トクハテの子である装束係シャルムの妻で、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らが事の次第を彼女に伝えると、

彼女は彼らに答えた。「イスラエルの神である【主】はこう言われます。『あなたがたをわたしのもとに遣わした人に言え。』」

*“いたち” …小柄で敏捷な女性？

デボラ以来の女預言者。マナセが多くの預言者を殺害。危機を生きのびた一人だろう。



歴代誌 裁きの宣告 歴二34:24~25

【主】はこう言われる。見よ。わたしはこの場所とその住民の上にわざわいをもたらす。ユダの王の前で読みあげられた、その書物に記されているすべてののろいをもたらす*。

彼らはわたしを捨て、ほかの神々に犠牲を供え、自分たちのすべての手のわざで、わたしの怒りを引き起こした。わたしの憤りはこの場所に注がれ、消えることはない*。』

*長年積み重ねられてきた罪への裁きは、すでに確定されていた。



列王記 ヨシヤへのお告げ 列二22:18～19

【主】を求めるためにあなたがたを遣わしたユダの王には、こう言いなさい。『あなたが聞いたことばについて、イスラエルの神である【主】は、こう言われる。

あなたは、わたしがこの場所とその住民について、これは恐怖のもととなり、ののしりの的となると告げたのを聞いた。そのとき、あなたは心を痛めて【主】の前にへりくだり、自分の衣を引き裂いてわたしの前で泣いた*ので、わたしもまた、あなたの願いを聞き入れる—【主】のことば—。

*悔い改めたヨシヤの姿を主は見ておられた。



歴代誌 災いからの逃れ 歴二34:28～29

見よ、わたしはあなたを先祖たちのもとに集める。あなたは平安のうちに自分の墓に集められる。あなたは自分の目で、わたしがこの場所とその住民にもたらず、すべてのわざわいを見ることはない*。』」彼らはそれを王に報告した。

王は使者を遣わして、ユダとエルサレムのすべての長老たちを集めた。

*捕囚前の信仰者に与えられる最善の約束。

➔大患難前の時代の救いが、「携挙」



歴代誌 確認された律法 歴二34:30~31

王は、ユダのすべての人々、エルサレムの住民、祭司とレビ人、および上の者から下の者まで、すべての民とともに【主】の宮に上り、【主】の宮で見つかった契約の書のことばをすべて彼らに読み聞かせた。

それから王は定めのある場所に立ち、【主】の前に**契約**を結び、【主】に従って歩み、心を尽くし、いのちを尽くして主の命令と証しと掟を守り、この書物に記されている契約のことばを行うことを誓った。

* 信仰は常に主の約束の遵守に基づくもの。



主を信じるとは
神と契約を結ぶこと

歴代誌 行動の実 歴二34:32~33

王はエルサレムとベニヤミンにいるすべての者をこの契約に加わらせた。エルサレムの住民は、その父祖の神である神の契約にしたがって行動した。

ヨシヤはイスラエルの子らのものである全地から、忌み嫌うべきものを取り除き、イスラエルにいるすべての者を自分の神、【主】に仕えさせた。彼の生きている間、彼らはその父祖の神、【主】に従う道から外れなかった*。

*ヨシヤは生涯、ユダの民にも徹底させた。



信仰は主との契約
実行する義務がある

Ⅲ. まとめと適用

その学びは、日々私を造り変えているか
御言葉の命を私自身に取り戻そう



オリーブ山と羊

ヨシヤの生きた信仰に学ぼう

- 16歳で主を求める。20歳から宮きよめを実行。建築献金を始める。26歳の時に、神殿の修復作業に着手。律法の書を発見。
- 心を痛めて主の前にへりくだり、自分の衣を引き裂いて泣いた。
- 民にも主を求めさせ、自分自身もさらに主の言葉に心を傾けた。
- 主と契約を結び、民と共に、神の律法に従い生きることを誓った。
- 生涯、主の道から外れることはなかった。

生きた信仰は、必ず行いの実を結んでいく

ヨシヤとユダを立ち返らせた律法の書の言葉とは？

■「土地の契約(申命記29~30章)」の言葉ではないか？

■土地の約束に記されていたこと

- ①主がイスラエルを奴隷から解放し、荒野を行く民を守り導いた。
- ②主は約束通り、イスラエルに嗣業の土地を与える。
- ③主に背き偶像礼拝に陥れば、約束の地を追われることになるが、主は約束のゆえに、厳しい裁きの後、民を再び帰還させる。

イスラエルの背教と捕囚の予告

申命記29章19～20節

こののろいの誓いのことばを聞いたとき、心の中で自分を祝福し、「私は自分の頑なな心のままに歩んでも大丈夫だ」と言うなら、潤った者も渴いた者も等しく滅びることになる。

【主】はその者を決して赦そうとはされない。むしろ、そのとき、【主】の怒りとねたみがその者に対して燃え上がり、この書に記されている、すべてののろいの誓いがその者の上にのしかかり、【主】はその者の名を天の下から消し去られる。

偶像礼拝の本質を再確認しよう

「心の中で自分を祝福し、
『私は自分の頑なな心のままに歩んでも大丈夫だ』というなら、」

- 人が自分を、自分で祝福する。なんの悔い改めもなく、頑なな心のままに、自分の思いも感情も、欲望のままに肯定する。
→絶対化され全肯定された「ありのままの自分」こそ最たる偶像。
- 自分の感性、感覚、思い、感情を、無意識に絶対化していないか？
- 御言葉に聴くことを第一として、日々実行しているだろうか？
…朝一番のデボーション。気づきを実行に移すこと。

信仰とは、主に聴き従い、正しい方を選び、実行すること!!

申命記30章14～20節

申命記30章14～16節

まことに、みことばは、あなたのすぐ近くであり、あなたの口
あり、あなたの心にあって、あなたはこれを行うことができる。
見よ、私は確かに今日あなたの前に、いのちと幸い、死とわざわい
を置く。

もしあなたが、私が今日あなたに命じる命令に聞き、あなたの神、
【主】を愛し、主の道に歩み、主の命令と掟と定めを守るなら、
あなたは生きて数を増やし、あなたの神、【主】は、あなたが入って
行って所有しようとしている地で、あなたを祝福される。

申命記30章17～18節

しかし、もしあなたが心を背け、聞き従わず、誘惑されてほかの神々を拝み、これに仕えるなら、今日、私はあなたがたに宣言する。

あなたがたは必ず滅び失せる。

あなたがヨルダン川を渡り、入って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことはない。

申命記30章19～20節

私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。
私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。

あなたはいのちを選びなさい。

あなたもあなたの子孫も生き、あなたの神、【主】を愛し、
御声に聞き従い、主にすがるためである。

まことに**この方こそあなたのいのち**であり、あなたの日々は長く続く。
あなたは、【主】があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに
与えると誓われたその土地の上に住むことになる。

★ 今を生かされている私たちのいのちとは？ ★

- 主こそ、いのち。主の約束こそが命の根源。私たちの従うべきもの。
- この教会時代のいのちが、主イエスの福音だ。イエス・キリストは、私の罪のため十字架で死なれ、葬られ、死を打ち破って復活された。
- 主イエスに従う道を日々選び取ろう。世の終わりの裁きは下される。しかし、悔い改めて立ち返って信じる者は、主の日の裁きを免れる。
- どんなに混沌とした、裁き目前の世界でも、主に従い通すなら、信仰生活を全うすることができる。主が確かに守り導かれる。

日々、主のいのちを選び取り、主の証人として歩んでいこう!!

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

ヨシヤの時代以上の厳しい主の裁きと滅びが、世に迫っています。

深まる闇の中で、ひたすらに主を求めさせてください。

福音を信じて新生された私は、主のいのちを日々選び取ります。

主イエス・キリストの福音のいのちの証人として、遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」